

氏名	中 田 憲 一
学位の種類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 1551 号
学位授与の日付	昭和60年3月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）
学位論文題目	肝障害時の血中インスリン動態に関する研究 第1編：肝疾患時の糖負荷後血中高インスリン反応の機序 第2編：急性および慢性肝障害ラットにおける糖負荷後血中インスリン反応と単離膵ラ氏島のインスリン分泌
論文審査委員	教授 太田善介 教授 木村郁郎 教授 産賀敏彦

学位論文内容の要旨

肝障害時の糖負荷後血中高インスリン反応の機序と肝の病態との関係を明らかにする目的で、急性肝炎・慢性肝炎・肝硬変患者に糖負荷試験を行い、血中インスリンと肝で分解され難いCペプチドを同時に測定し、肝疾患時の膵からのインスリン分泌と肝におけるその分解について検討した。その結果、肝疾患時の糖負荷後血中高インスリン反応は、急性肝炎急性期の極期には肝におけるインスリン分解の低下、極期を過ぎると膵からの分泌亢進によること、慢性肝炎では耐糖能低下に伴う代償性分泌亢進と分解低下によること、肝硬変代償期には主に分泌亢進、非代償期には耐糖能低下に対する代償性の分泌亢進と分解低下によることを明らかにした。この臨床的検討結果の裏づけとして、四塩化炭素投与急性・慢性肝障害ラットについて糖負荷試験、単離膵ラ氏島の周辺灌流を行い、血中および灌流液中のインスリンを測定し、血中インスリン動態を検討した。その結果、上記の臨床的検討成績と同様、急性肝障害極期の糖負荷後血中高インスリン反応は肝における分解低下によること、肝硬変期の高インスリン反応は膵からの分泌亢進によることを示唆する成績を得た。

論文審査の結果の要旨

本研究は肝障害時の糖負荷後血中高インスリン反応の機序と肝の病態との関係を明らかにする目的で、臨床的並びに実験的に血中インスリンなど測定し、インスリンの膵か

らの分泌亢進を肝における分解低下による2つの機序の存在することを明らかにした価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。